

こちら特報部

本音の
コラム

それはある新聞記事から始まった。被災地で一人暮らし高齢者は、ひもじくて配給のおにぎりを夜中に食べるらしい。また防犯のため枕元に包丁を置いて眠る。

いがた けいこ
井形 慶子

力になりたいと思って調べているうちに、今も約百人の被災者が暮らす岩手県山田町の小学校に行き着いた。まとめ役の年配男性は、配給食は十分あると教えてくれた。「必要なものありませんか」と全国の方々から聞かれるが、「皆に贅沢品を与えたくない。最低限の暮らしに慣れなければ、ここを出た後各々が自立できなくなるから」という。

だが、しばらく話すう

灼熱体育館を冷やせ

ち「最近、中高生の部活が始まったが学校は遠い。街もない暗いがれきの中を遅くに帰って来るから心配だ。窓を開ければ虫が入るから網戸も必要。夏場を控え、自治体に扇風機を申請しているが、いまだ返答がない」と実情を語ってくれた。

六月、体育館での講演会で、うだる暑さに何人もの高校生が倒れたことを思い出す。グズな行政に任せられない。速攻で調べ、体育館用省エネ大型冷風機を発見、購入を即決。費用は私の会社が出し、広告主の寄付金も充てた。販売元の「三和式ベンチレーター」所長も一台提供することに。早速、現地に連絡すると喜んでくれた。ここを出て内陸に行った高齢者も、淋しさから体育館に戻っている。熱中症対策は国の急務だ。(作家)